総合教育センターだより

街路樹

発行第175号
令和５年９月２９日（金）
いわき市総合教育センター
いわき市平字堂根町１－４
０２４６（２２）３７０５

英語・外国語科の授業改善の視点と実践例紹介

8月18日（金）に実施した「授業力向上講座Ⅰ（中学校英語）」では文部科学省のYouTube チャンネル「外国語教育はこう変わる！」における「中学校の外国語教育はこう変わる！」の動画を活用して、中学校外国語科の授業改善について学びを深めました。

この動画では、かつて中学校外国語科で行われてきた「新出言語材料のインプット→口頭練習→活動」という授業の流れを脱却し、生徒の言語活動を中心に据えた授業を見ることができます。その言語活動の進め方について紹介します。

【言語活動１回目】※新出言語材料：中２助動詞will
「今週末の予定について１分間会話しよう」
- ○　教師は話題だけを提示し、使用する言語材料は示さない。
- ○　生徒は既習事項や帯活動のワークシートを使いながら活動に取組む。

【中間指導】
- ○　１回目の活動の様子を踏まえ、教師は英語について指導する。
- ○　既習表現を想起させたうえで、その表現を用いて、教師が生徒とやり取りをする。
- ○　既習表現の想起をペアまたはグループでさせることも効果的である。
- ○　教師は生徒が知っているはずの表現を次々に引き出し、板書するとともに、必要に応じて口頭練習をする。

【言語活動２回目】※１回目と全く同じ話題
- ○　生徒がワークシートを見ないでやり取りするようになる。
- ○　内容（聞きたいこと）と英語の両者を思考・判断しながら発話する生徒が増える。

外国語科の教師として、生徒がしっかり言語材料を練習をしないまま言語活動を行うことには、かなり不安を感じるかと思います。ただ、私たちは幼少期に日本語を真似しながら、使いながら、間違えながら習得してきたはずです。”Learning by doing!” を合言葉に英語を使える子どもたちを育てていきましょう！

算数・数学の学びから見た子どもの発達

小学校1，2年生の算数の授業を参観すると、児童が「ハイ、ハイ！」と元気よく積極的に手を挙げる様子が見られます。ところが、中学校になると数学が苦手どころか「大嫌い」と言う生徒がたくさん出てきます。では、いつ頃からどんな要因で変わってくるのでしょうか。

算数嫌いが出始めるのは小学校3年生くらいからで、4年生になると顕著になってくることが多いようです。これは、小数、分数などが入って難しくなることも考えられますが、もう一つ、心の発達も影響していると思われます。いわゆる「9歳の壁」といわれるものです。8歳ぐらいまでは主観の世界で、自分が見えるものが視点の中心ですが、9歳頃になると脳が発達し、自分を客観的に見ることができるようになります。すると、他者と自分を比べ、できないところが目についてきます。次第に自信を無くしていきます。大人は励ますつもりでも、他者と比較されたりすると、余計に自分のプライドを傷つけられ、やる気を失います。さらに大人から強制的に計算問題などを機械的に学習させられると、ますます勉強嫌いになり、ひいては勉強アレルギーにまでなってしまいます。

そもそも算数・数学の素地は、小さい時にお風呂に入って「1つ」「2つ」「3つ」・・・と、大人と一緒に数えながら体の温まり具合と共に体感を通して覚えた数詞や順序数、散歩をしながら見た美しく咲く花びらの枚数、お手伝いをしながら数えた家族分のお茶碗の数、お箸の本数、ピザを家族分で分けたときの分量等、実際の生活場面を通して自然に身につけていくものです。こうして得た知識はその後の学習に大きく影響し、確かな学力に結びついていきます。人間の自然な発達や体験を考慮した学習指導が、学力向上につながり、全人格的な教育になっていくと考えます。

校内研修で活用できる授業動画等について

総合教育センターでは、授業改善の一助として、調査研究委員の授業動画及び資料（単元構想シート・学習指導案）をアップロードしております。今年度の動画は、「児童生徒の興味関心を高める工夫」など、研修のテーマをしぼり、短時間で視聴できるものとなっております。9月29日（金）には算数・数学と英語の研修動画をアップする予定です。掲載場所は下記のとおりです。ぜひ校内研修等でご活用ください。

資料・動画の掲載場所について

※教職員研修のみでの活用として当該保護者・児童生徒より動画アップロードの同意を得ておりますので、取扱いには十分に気を付けてください。またクラスコードは、教職員以外に漏洩することのないよう適切に管理をお願いします。